

職員自己チェック評価

保育施設で働く職員としての資質向上等を目的に以下の自己チェックを実施

* 4ヶ月毎 自己チェック

目的：自分自身でチェック後、先輩にチェックをしてもらい、改善が必要な場合は早急に行う。

- 令和7年度の評価結果：保育士として気持ちよく職務に励むことができるよう、職員同士お互いの状況や気持ちを尊重し、互いが思いやりを持ち助け合うことを意識し、環境を整えることができた。

* 保育所保育指針に基づく自己チェック(年度末)

目的：年度末に1年の自己評価を保育所保育指針に基づき行い、集計をとり、次年度の課題・改善策として実行していく。

- 令和7年度評価結果：子どもの「やりたい」という思いを尊重し、寄り添う保育を行うことができた。
又、子ども一人ひとりの気持ちを大切にし、自分の気持ち・相手の気持ち・その気持ちの伝え方などに丁寧に向き合うことができた。
遊び・生活の中で様々なことを、一人ひとりの子ども自身が選択できるような環境設定を行い、子どもの意思を尊重し、思いを大切にすることを伝えていくことができた。一方で、核家族が増え、子どもの数も少なくなっている現在は、家庭の中では子ども同士のケンカなどが起きることもない為、思い通りにならない経験が少ないことを感じる。園での生活の中で、友達と一緒に過ごすことで感じる喜び・すばらしさ・相手の思いに気付けるような関わり合いを日々のコミュニケーションの中で育てていけるよう環境設定を意識した。

* 保育園全体及び幼児・乳児に分かれての自己チェック

目的：項目ごとに園全体(幼児・乳児)で自己評価を行い、サービス向上の取り組みを行う。

- ① 子どもの発達援助
- ② 子育て支援
- ③ 地域の住民や関係機関との連携
- ④ 運営管理

- 令和7年度評価結果：子育てにおける情報はあふれているものの、今目の前にいる子に対してどう接していったら良いのかわからずに悩んでいる保護者も多い。保護者の声や気持ちにも寄り添い、共に子育てをしていくものとして、相談しやすく、安心できるようなサポートが行えるよう職員一同心がけていきたい。

総合評価：小学校への移行の方向に変化があり、保育の中で取り入れていきたい育ちたい姿も変わってきている。熱中体験を大切に様々な遊びを保育の中に取り入れた。そこから生まれる遊びの展開に、保育者が臨機応変に対応できるよう、保育者も研修などで学んだことを存分に生かしていきたい。